



ヤンバルクイナを描いた作品を手にする岡田宗徳さん
東京都千代田区



岡田さんは作品展や講演などの予定を、ホームページ (<http://www.atelier-man-sell.com/>) で公開。やんばるの森や対馬など現地の写真や描いた作品も紹介している。

野生動物画家

岡田 宗徳さん

生物保護 絵筆で伝える

ヤンバルクイナ、ツシマヤマネコなど絶滅危惧種を中心に野生動物を描く。筆で毛の一本一本まで丁寧に再現するリアルさが作品の特徴だ。絵を通じた野生動物の保護や生息地保全の活動が、「生物多様性アクション大賞2018」（国連生物多様性の10年日本委員会主催）の審査委員賞を受賞した。

元々、犬や猫などペットを扱うイラストレーターだった。20代後半は雑誌で取り上げられ、1年先まで仕事が決まっていた。だが、多忙な日々のなかで「自分はどんな絵を描きたいのか」と自問し始める。より広く世の中に役立ちたいとの思いも膨らんだ。

その頃、友人から海外旅行の土産としてもらった野生動物を題材にした画集に触発され、ニ

ホンリスなど野生動物を取り上げるようになった。2008年には、野生動物を描く画家らでつくる団体「ソサエティー・オブ・アニマルアーティスト」（本部・米国）の試験に合格して入会した。

絶滅危惧種を描くきっかけは、沖縄で野生動物の保護に取り組む獣医師の言葉だった。「絵が描ける人は絵を描くことで保護に携わってくれば」

カメラを手に沖縄本島北部のやんばるの森に通うようになった。土の臭いや風に揺れる木々の音、鳥や虫の鳴き声など、描く生き物が暮らす環境を体感してから制作に取りかかる。

09年にヤンバルクイナを描いた作品が、団体の大会で初めて入選し、企業の広報誌の表紙絵などを依頼されるようになって

た。長崎・対馬のツシマヤマネコ、北海道のシマフクロウなど描く対象も広げていった。

野生動物の保護や生息地の保全を考えてもらうきっかけになればと、各地で作品展を開いたり、講演で自身の活動を紹介したりしている。会場で販売するカレンダーやポストカードなどの売上げの一部は、自然保護団体に寄付している。

個展や講演などでは、主に子どもたちを対象にした「おえかき教室」も開く。描くことで動物が好きになり、自然にも興味をもってもらえればと願う。

「将来、ヤンバルクイナたちが自然の中で生き続けていて、そこに自分の活動が何らか役立っていれば絵描きとして意義ある仕事ができたと思う」

（川村剛志）

Tokyo Evening

2018年(平成30年)
12月18日
火曜日 夕刊

朝日新聞東京本社
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話 03-3545-0131 www.asahi.com



eco活
エコカップラス

2018年12月18日

朝日新聞 夕刊

『eco活プラス』



絵を通じた野生動物
生息地環境保全に
関する活動が紹介

◆「朝日新聞環境取材チーム」のツイッター (@asahi_kankyo) でエコの話題をつぶやき中

活動を続けていけるのも、いつも応援していただいている皆さまのお陰だと感謝致しております。

今回の取材記事を通じて全国のひとりでも多くの方に絶滅の恐れがある動物やその生息地で起きていることを知る切掛けになれば大変うれしいです。これからも頑張ります！



【取材を通じて・・・】この度の取材は約11年間におよぶ野生動物保護・生息地環境保全に関するお話をさせていただきました。沖縄ヤンバルクイナの保護から大学などでの特別講義・そして北海道猛禽類医学研究所の方々とのイベントやサーモス社とのコラボで完成した猛禽類マグボトル・・・振り返ると、ひとつひとつとても記憶に残る活動をさせていただいたことに気付かされます。感謝の気持ちを忘れずこれからも一歩一歩前に進まなければならないと気持ちをあらたに致しました。